

## 6 震生湖誕生 100 周年記念座談会

### － 私たちと震生湖 －

震生湖が誕生して 100 年、地域関係者は何を今、思うか。

震生湖周辺で活動する団体関係者 9 人にお集まりいただき、座談会を開催しました。日頃の活動、震生湖への思いや体験、伝え聞いた関東大震災の記録、今後の震生湖の在り方についてお話をお伺いしました。

開催日 令和 5 年 6 月 7 日（水）午前 10 時～午前 11 時 45 分

場 所 秦野市役所本庁舎 3 階 3 A 会議室

#### 参加者

たかはしてつ お  
高橋徹夫（南地区自治会連合会 会長）

くりはらたか お  
栗原孝夫（南地区自治会連合会 副会長）

こいずみ つとむ  
小泉 勉（南地区自治会連合会 南地区きれいな住みよい町づくり運動推進  
委員会 震生湖部会）

しみず たかし  
清水 尊（震生湖開発地主組合 組合長）

くりはらまさゆき  
栗原正行（南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会 会長）

やながわさだ お  
柳川貞夫（南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会 副会長）

いちかわかず お  
市川和雄（秦野市観光協会 会長）

いいだ としかず  
飯田敏一（秦野福寿弁財天奉賛会 事務局長）

しむら こ  
志村ハル子（元南婦人会 会長）

#### 司会／コーディネーター

みずしまかず は  
水島一葉（秦野市文化スポーツ部生涯学習課 課長）

事務局 生涯学習課文化財・市史担当



座談会の様子

## 各団体の自己紹介、震生湖周辺での活動内容について



高橋徹夫

高橋：南地区自治会連合会会長の高橋です。当会として、約 10 年をかけて震生湖誕生 100 周年に向けて知恵を絞ってきました。南地区の宝である震生湖が、これからの 100 年、次の世代に何か残せればということを目指して、連合会の中に事務局を設置し、取り組んできました。今年度は記念事業を着手する年になるので、多くの方の知恵を集約し、当会のやるべき仕事をとおして、これからの世代にしっかりと震生湖の位置付けをしていきたいです。

栗原（孝）：南地区自治会連合会副会長の栗原です。当会では、「花いっぱい運動」という水仙の球根を震生湖周辺に植える取組も行なっています。各団体の協力を得ながら、集大成の年としていきたいです。

震生湖への思いとして、南地区では二つの思いがあると思います。一つは、観光地として社会的資源を活用して良い方向に向けたいという思い、一方で、戦後間もない頃に不幸な出来事が起きた場所であるということです。100 周年を契機に、不幸な過去の出来事は教訓として活かし、震生湖が社会的資源として素晴らしい場所になってほしいです。また、次の 100 年については、震生湖が教育の場としての面も含めて、観光資源を主にした位置付けになってほしいと思っています。



栗原孝夫



小泉勉

小泉：南地区自治会連合会南地区きれいな住みよい町づくり運動推進委員会震生湖部会の小泉です。この部会は、平成 28 年（2016）に南地区自治会連合会総会で部会創設を提案し、了解を得て、ちょうど 7 年が経過したところです。部会ができる 1 年程前に、当時の会長に震生湖をもう少し盛り上げることはできないだろうかと相談したところ、資金もない中で、震生湖までの道標を作りました。これをきっかけに部会を立ち上げました。

震生湖は、私有地がほとんどだと思いますが、散策路を整備したいとの提案にも快く御協力いただいて、今の姿があるのかなと思います。また、平沢の小原地

区の方は、震生湖にトイレがない時に快く自宅のトイレを貸されるということもありました。このような活動を次の 100 年においても地元でつなげていきたいと思っています。

当部会は、何々を守る会と名乗っていませんが、まちづくりの原点である地元の打ち合わせの場を作り、秦野市に様々な地元の声を届けるような、役割を引き続き行なっていきたいと思っています。

栗原（正）：南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会会長の栗原です。当会は、平成 23 年（2011）9 月に発足をいたしました。会員数は 104 名、観光とか教育、ごみ拾いなどの活動をし、秦野盆地の南に位置する雄大な丹沢の山々を望む南はだの村において、七福神と鶴亀を訪問し、福を集めることを目的としています。七福神は、白笹稲荷神社、浄円寺、御嶽神社、出雲大社相模分祀、西光寺、福寿弁財天、太岳院、尾尻八幡神社、嶽神社の 9 社寺です。



栗原正行

震生湖誕生 100 周年の前年にあたる令和 4 年（2022）9 月には、震生湖のバス停の近くで大震災埋没者供養塔、小原改修記念碑等がある場所に寺田寅彦の句碑を建立しました。この碑には、「そば陸稲 <sup>おかぼ</sup>丸う山越す 秋の風」の句が彫られています。

今後の活動としては、引き続き、清掃作業を行う予定です。当会のほか、地主組合、有志の会、震生湖部会、福寿弁財天、今回は中井町も入れて行いたいと思っています。



柳川貞夫

柳川：南はだの村七福神と鶴亀めぐりの会副会長の柳川です。会の発足は、東日本大震災と同じ年ということで、東日本大震災で亡くなった方の慰霊する会を南はだの村シンポジウムと題して、地震が起きた 3 月 11 日に開催しています。2 部制で 1 部が献花と慰霊を行い、2 部に防災意識を高めようと講演等を実施しています。

10 年で打ち切ろうと思っていましたが、続けていくことに意味があるということで、令和 5 年（2023）3 月 11 日においては、少しでも来場者を集めるために、ライアー演奏（ドイツ式豎琴）と日本舞踊を内容に組み込みました。その結果、70 名以上の参加がありました。次年度も引き続き、シンポジウムという形で開催しようと思っています。





清水尊

清水：震生湖開発地主組合組合長の清水です。この組合は終戦後、平沢出身の加藤高次郎神奈川県議会議員が乱開発をしないようにと作られました。その後、組合長といった役職を決め、事務局を置き、続いてきました。当時の震生湖周辺には綺麗な断層があり、貴重な崖地的な価値がありました。残念ながら、現在は竹やぶとなっています。

今は葉タバコ作りもやめ、盆地の中も都市化により、農家の草ぶき屋根は見えなくなってしまったが、当時の東京あたりの学校からすると秦野の集落と断層は視察を行ういい場所でした。日比谷高校の生徒が 50 ～ 100 人が来られたのが最後だったと最初の組合長は言っていました。

組合という組織ができたので、掃除をしようということになり、女性部をつくり、お願いすることになりました。出雲大社の梅園を見ながら皆でお茶を飲み、2 回ぐらい行いましたが継続的には実施できませんでした。

市川：秦野市観光協会会長の市川です。当協会は、法人化して 15 年ほど経ちます。秦野市は首都圏にも近く、観光資源にも恵まれていますので、それを PRしながら秦野を訪れるお客様を増やして地域を盛り上げていく活動をしています。

さまざまな活動の中で特に震生湖については、「秦野さんぽ」で紹介しています。今年の春に震生湖誕生 100 年にちなみ、震生湖とはだの桜道をめぐる旅ということで PR を行いました。また、ハイキングカレンダーを掲載しており、震生湖に関しては、4 月に観光ボランティアの会と震生湖を訪れるという事業を実施しています。その他に観光写真コンクールを毎年実施しており、震生湖賞を出しています。震生湖を題材とした作品は人気があり、毎年 100 件程が集まります。



市川和雄

もう 1 枚「震生湖」というリーフレットをお配りしましたが、これは数ある秦野の観光資源の中で、特に震生湖を紹介する印刷物です。

また、秦野はテレビドラマや映画のロケ地としても、人気があるところで、特に震生湖は、神秘的な湖といったイメージで撮影をするロケの



観光協会のパンフレット

問い合わせがあります。我々としてもロケ地として活用してもらうために制作会社と連携を取りながら、情報を発信しています。

飯田：秦野福寿弁財天奉賛会事務局長の飯田です。震生湖にあります弁財天は、奈良県天川村の天河大辨財天から魂をいただいています。現在、10人くらいで活動をしており、毎月3回、7の日を福磨きの日と定め、掃除や本殿にお供物をお供えして、お祈りをしています。



飯田敏一

11月7日に秋の例大祭を開催しており、秦野市外からも大勢の方が参拝にみえられます。弁財天は芸の神様ということで、去年は本殿で東京や横浜といった市外の3、4グループが日本舞踊などを披露しました。

国登録記念物に登録されたということもありますが、お賽銭の金額も増えており、このお金を建物の修理代としています。今年は鳥居4基の塗装修理をみんなで手分けして行います。外部からの御支援をいただけていませんので、すべてお賽銭、或いは奉納品で賄っています。

志村：元南婦人会会長の志村です。当会は令和3年(2021)に創設70数年になりましたが、後を継ぐ人がいなくなり、解散になりました。

震生湖における活動は、昭和25年(1950)の発足時から清掃をしていたそうです。当時は、毎月ではなく、3ヶ月に1回くらいの活動だったと聞いています。



志村ハル子

私は昭和40年(1965)に婦人会に入り、車を所有しているからと会員を震生湖に連れていく役をしました。車を運転できる人が少なかったので、タクシーに乗り合いをして、震生湖に掃除をしに行っていました。当時、売店があり、会から500円の援助がありましたので持っていくと、お茶とお茶菓子を出してくれました。売店前にベンチがあり、皆で雑談をして1時間くらいお茶を飲み、世間話をして帰っていく、それが一つの楽しみでした。

## 震生湖と伝え聞く関東大震災のエピソードについて

高橋：最初に震生湖に行ったのは、小学校 3、4 年生、10 歳ぐらいの時だったと思います。それから今に至っていますが、震生湖のイメージは、なんとなく暗かったり、危険だからあんまり行ってはいけないというイメージがあります。これからの世代には、そういうイメージを一新しないと震生湖は存続できないのではないかと感じています。そのために、良いイメージの題材を整備しなければ、自信を持って震生湖に来てくださいと言えないのではないかと思います。

これからの世代が本当に震生湖を大事にして、国登録記念物になって本当によかったと思えるように皆で力を合わせ、努力する必要があると思います。

栗原（孝）：聞いた話なので正確かはわかりませんが、震災当日について、今泉の味噌田地区あたりでは物置が結構壊れたようです。しかし、母屋が倒壊したという話はあまりなかったそうです。

それと、私が子どもの思い出として、くずかきという名の落ち葉拾いを震生湖周辺でして、それを牛車に乗せたことがあります。

事務局：加藤高次郎という名前が清水尊さんからでてきました。加藤高次郎と小泉正延の 2 人は震生湖を命名した「供楽会」を組織して、震生湖を南秦野の観光名所にしようということで、非常に大きな働きをした人物です。この方達のエピソードがあつたらぜひ教えて欲しいです。

清水：地権者ではないのですが、残念ながら地元での記録が残っていません。





## 今後に望む震生湖の在り方について

高橋：震生湖という位置づけを次の世代が感じ取れない限り、我々が震生湖を一生懸命に訴える意味はないと思います。教育委員会や学校では、震生湖に遠足で訪れようという位置付けが薄れているのではないかと思います。我々が小学生だった頃は、遠足や写生などで震生湖を訪れましたが、今は年間を通して震生湖を題材にして、訪れたりしていないのではないのでしょうか。

安心して散策できる、自然の姿を学ぶことができる場所といえるような震生湖になってほしいと思います。弁財天では、市外から来訪者があるわけですが、地元の中から震生湖の位置付けが出てこないのが現状だと思います。

飯田：もう少し震生湖に足を運んでもらうためには、まずトイレが少ないのでインフラ整備をする必要があると思います。

栗原（孝）：私も環境整備が整わないと小学生といった次の世代は行きづらいと思います。また、震生湖の位置付けですが物理学者で俳人の寺田寅彦の「天災は忘れたことにやってくる」と、これに尽きるのではないかと思います。秦野市内に、そのような場所は震生湖だけです。それを子どもたちに教える機会、または大人が時々思い出す場所として良いのではないかと思います。そのような場所に震生湖をしてもらいたいです。古い写真も教育委員会で保管されているようなので、常時そういったものを博物館等で展示することも良いのではないかと思います。そのような整備ができると、観光地や子どもたちの教育の場としての社会資源化になると思います。100周年は何のためにあるかということ、先ほど申し上げたようなことへと切り替える機会ではないかと思います。

柳川：清水さんの話にあった断層についてですが、現在は地層が動いたという証拠が見えないので、そこをしっかりと整備をしてもらいたいです。



市川：防災という観点で考えたときに、地震が来ると土砂崩れが起きて湖ができるということが、震生湖という素晴らしい教材で分かります。

環境整備と並行して考える必要がありますが、まずは、教育の中

で防災や地質の教材として、震生湖を取り入れてもらうことが今後必要になると思います。

飯田：子どもたちへの教育という話ですが、防災教育や地質の教材のほかに、震生湖には寺田寅彦の句碑もあるので、震生湖をテーマに俳句をつくることも1つの方法だと思います。南地区をはじめとした市内の子どもたちにそこから天災の恐ろしさをイメージしてもらい、文化財の価値とともに防災意識の高揚のために考えてもらいたいと思います。

司会：貴重なお話をありがとうございました。関東大震災、震生湖誕生から100年という節目を迎え、観光地という側面だけではなく、震災遺構という文化財として、多くの人に知っていただきたいと思っています。そして、100年後にも震災の記憶と教訓を伝え、自然豊かで皆に愛される震生湖を引き継いでいくことができるよう、引き続き地域の皆様の御協力をお願いさせていただき、座談会を閉会させていただきたいと思います。



座談会参加者